

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第2回）

<盛岡ブロック①>

日時：令和元年5月28日（火）

10:00～12:00

会場：盛岡市総合福祉センター

4階 講堂

【次 第】

- 1 開会
- 2 県教育委員会挨拶
- 3 平成31年度の入試状況について
- 4 第1回地域検討会議における主な意見等
- 5 後期計画策定に向けた意見交換
 - ◆ テーマ
 - ・ 小規模校のあり方について
 - ・ 少人数学級について
- 6 その他
- 7 閉会

平成31年度の入試状況について

年 度	27	28	29	30	31
中 学 校 卒 業 者 数	12,083	12,081	11,929	11,379	11,141
募 集 定 員	10,200	10,200	10,120	9,800	9,440
合 格 者 数	9,013	8,989	8,673	8,475	8,044
総受検者数	9,722	9,952	9,660	9,102	8,751
欠 員	▲1,187	▲1,211	▲1,447	▲1,325	▲1,396
調整後志願倍率	0.93	0.94	0.92	0.90	0.89

平成31年度岩手県立高等学校募集定員・合格者数等一覧表(全日制)

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検 者数
盛岡第一	普通・理数	普通・理数	280	285	5	354
盛岡第二	普通	普通	200	200	0	213
盛岡第三	普通	普通	280	287	7	348
盛岡第四	普通	普通	240	246	6	356
盛岡北	普通	普通	240	240	0	259
盛岡南	普通	普通	160	161	1	161
	普通	体育コース	40	41	1	41
	体育	体育	40	27	▲13	29
不来方	普通	人文・理数	160	164	4	203
	普通	芸術	40	40	0	53
	普通	外国語	40	40	0	52
	普通	体育	40	41	1	52
盛岡農業	農業	動物科学	40	39	▲1	48
	農業	植物科学	40	34	▲6	36
	農業	食品科学	40	42	2	50
	農業	人間科学	40	36	▲4	35
	農業	環境科学	40	35	▲5	36
盛岡工業	工業	機械	40	40	0	45
	工業	電気	40	40	0	40
	工業	電子情報	40	40	0	45
	工業	電子機械	40	37	▲3	37
	工業	工業化学	40	24	▲16	23
	工業	土木	40	37	▲3	35
	工業	建築・デザイン	40	38	▲2	41
盛岡商業	商業	流通ビジネス	80	82	2	113
	商業	会計ビジネス	80	82	2	91
	商業	情報ビジネス	80	82	2	113
沼宮内	普通	普通	80	44	▲36	44
葛巻	普通	普通	80	41	▲39	41
平舘	普通	普通	40	32	▲8	33
	家庭	家政科学	40	12	▲28	12
雫石	普通	普通	40	30	▲10	30
紫波総合	総合	総合	200	142	▲58	148
花巻北	普通	普通	240	245	5	268
花巻南	普通	人文科学・自然科学	120	122	2	158
	普通	スポーツ健康科学	40	39	▲1	36
	普通	国際科学	40	40	0	46
花巻農業	農業	生物科学	40	42	2	46
	農業	環境科学	40	41	1	49
	農業	食農科学	40	40	0	41
花北青雲	工業	情報工学	40	42	2	34
	商業	ビジネス情報	80	84	4	110
	家庭	総合生活	40	41	1	43
大迫	普通	普通	40	34	▲6	34
黒沢尻北	普通	普通	240	217	▲23	218
北上翔南	総合	総合	240	219	▲21	219
黒沢尻工業	工業	機械	40	38	▲2	39
	工業	電気	40	40	0	47
	工業	電子	40	25	▲15	23
	工業	電子機械	40	40	0	40
	工業	土木	40	35	▲5	36
	工業	材料技術	40	32	▲8	30
西和賀	普通	普通	40	36	▲4	37
水沢	普通・理数	普通・理数	240	241	1	256
水沢農業	農業	農業科学	40	28	▲12	29
	農業	食品科学	40	26	▲14	27
水沢工業	工業	機械	40	36	▲4	25
	工業	電気	40	40	0	47
	工業	設備システム	40	40	0	47
	工業	インテリア	40	40	0	44
水沢商業	商業	商業	40	36	▲4	34
	商業	会計ビジネス	40	25	▲15	24
	商業	情報システム	40	40	0	44
前沢	普通	普通	80	53	▲27	57
金ヶ崎	普通	普通	120	58	▲62	59
岩谷堂	総合	総合	160	102	▲58	102
一関第一	普通・理数	普通・理数	240	239	▲1	246
一関第二	総合	総合	200	202	2	273
一関工業	工業	電気	40	24	▲16	26
	工業	電子	40	32	▲8	31
	工業	電子機械	40	40	0	44
	工業	土木	40	29	▲11	32
花泉	普通	普通	40	36	▲4	36
大東	普通	普通	80	59	▲21	59
	商業	情報ビジネス	40	21	▲19	21
千厩	普通	普通	120	96	▲24	97
	農業	生産技術	40	40	0	45
	工業	産業技術	40	22	▲18	21

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検 者数
高田	普通	普通	160	124	▲36	124
	水産	海洋システム	40	6	▲34	8
大船渡	普通	普通	160	161	1	161
大船渡東	農業	農芸科学	40	18	▲22	18
	工業	機械電気科	40	40	0	43
	商業	情報処理	40	17	▲23	19
	家庭	食物文化	40	22	▲18	23
住田	普通	普通	40	36	▲4	36
釜石	普通・理数	普通・理数	200	177	▲23	177
釜石商工	工業	機械	40	32	▲8	32
	工業	電気電子	40	29	▲11	31
	商業	総合情報	40	38	▲2	39
遠野	普通	普通	160	124	▲36	129
遠野緑峰	農業	生産技術	40	35	▲5	35
	商業	情報処理	40	23	▲17	23
大槌	普通	普通	80	42	▲38	42
山田	普通	普通	80	31	▲49	32
宮古	普通	普通	240	185	▲55	187
宮古北	普通	普通	40	30	▲10	30
宮古工業	工業	機械	40	18	▲22	18
	工業	電気電子	40	27	▲13	27
	工業	建築設備	40	23	▲17	23
宮古商業	商業	商業	40	40	0	43
	商業	会計	40	16	▲24	14
	商業	流通経済	40	29	▲11	30
	商業	情報	40	37	▲3	35
宮古水産	水産	海洋生産	40	14	▲26	13
	家庭	食物	40	32	▲8	33
岩泉	普通	普通	80	51	▲29	51
久慈	普通	普通	160	152	▲8	155
久慈東	総合	総合	200	152	▲48	155
久慈工業	工業	電子機械	40	14	▲26	15
	工業	建設環境	40	18	▲22	18
種市	普通	普通	40	19	▲21	20
	工業	海洋開発	40	30	▲10	31
大野	普通	普通	40	30	▲10	30
軽米	普通	普通	80	46	▲34	46
伊保内	普通	普通	40	20	▲20	20
福岡	普通	普通	160	144	▲16	144
福岡工業	工業	機械システム	40	28	▲12	28
	工業	電気情報システム	40	20	▲20	20
一戸	総合	総合	120	96	▲24	96

9,440	8,044	▲1,396	8,751
-------	-------	--------	-------

※参考<市立>

学校名	大学科	学科・学系 ・コース	募集 定員	合格 者数	過不 足数	総受検 者数
盛岡市立	普通	特別進学コース	35	37	2	42
	普通	普通	160	164	4	235
	商業	商業	80	83	3	115
			275	284	9	392

第 1 回地域検討会議における主な意見等

<p>(1) 地域の将来を担う高校の役割に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地元の高校の存在は大きく、地方創生の面から考えた場合、小規模校であっても地域と協働可能な体制づくりをさらに進める必要がある。 <p>(2) 地域の産業人材の育成に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人材確保に向け、地域の産業界のニーズに即した教育を充実させ、地域の産業界と直結した、岩手ならではの専門教育の形を構築するべきである。 <p>(3) 市町村、地元企業との連携による学校の魅力づくりに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校の魅力づくりについては、市町村としても積極的に支援していきたい。 ・ 地元企業や自治体と協働しながら地域課題の解決に向けた探究学習への取組を推進し、地元に対する生徒の意識・愛着を高めていくべきである。 <p>(4) 部活動に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の学校では部活動の選択肢が少なく、希望する部活動を行うために地区外の高校へ進学する生徒もいることから、部活動の充実に係る検討が必要である。 <p>(5) 特別な支援を要する生徒への対応に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 特別な支援を要する生徒にとっては、地元が安心して学べることから、小規模であってもそのような環境を維持するべきである。 	<p>◇資料 No.4 により、再編計画における小規模校の考え方を確認し、地域にとって必要な学校のあり方等について検討</p>
<p>(6) 少人数学級に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高校だけが 1 学級定員 40 人の基準を続けているが、個々の生徒に対応したきめ細かな教育の実現に向けて、少人数学級の導入を検討するべきである。 <p>(7) 少人数教育に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 少人数教育を通じて豊かな表現力や確かな学力を身に付けさせることができることから、今後においても少人数教育を推進するべきである。 <p>(8) 教育の質の確保に向けた教員配置に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 中山間部や沿岸部の高校の生徒の学力差は大きく、また多様な進路に対応していかなければならないため、教員の配置について配慮が必要である。 	<p>◇資料 No.5 により、少人数学級の状況等を確認し、今後のあり方について検討</p>
<p>(9) 県外生徒の受入れに関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 県外生徒の受入れを推進できる制度とし、環境については整備する必要がある。 <p>(10) 教育の充実に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模校については、情報通信技術 (ICT) を取り入れた遠隔授業等により、教育の質を維持できるような工夫が必要である。 <p>(11) 入試制度に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域産業の担い手を確保する観点から、特に専門学科については推薦入試の枠を拡大するべきである。 	<p>◇実施に向けて検討中の事項</p>
<p>(12) 地域に必要な学科の配置に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門学科で学ぶ生徒は地域産業の担い手として大切な人材であるため、県全体のバランスを考慮しながら専門学科を維持するべきである。 ・ 地域のニーズや産業構造の変化等を踏まえ、特徴的な学科の設置も検討するべきである。 <p>(13) 学科の学習内容等に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 総合学科の位置づけや教育内容を精査し、魅力のある学科とするべきである。 ・ 今後も県内全体の高校の学級数が減少していくことから、生徒の学力をどのように維持していくべきか具体策を考える必要がある。 	<p>◇今後の検討が必要な事項</p>

■ 後期計画策定に向けた意見交換

[テーマ]

- 1 小規模校のあり方について
- 2 少人数学級について

1 小規模校のあり方について

前回の会議において、地域の担い手の育成や地域の活性化の観点から学校の存在は重要であり、小規模となっても現在ある高校を残してほしいとする意見をいただきました。

- ・ 各地域における学校の現状を踏まえながら、地域にとって必要な高校はどのような高校か御意見を伺います。
- ・ 本県には1学級校が8校ありますが、今後、1学級校の存続について考えていく場合にどのような視点が必要か御意見を伺います。

2 少人数学級について

前回の会議において、義務教育で行われている35人学級のように、高校においても1学級定員40人だけではなく、少人数学級も取り入れてほしいとする意見をいただきました。

- ・ 各地域における学校の現状を踏まえながら、より良い教育環境を整えるという視点から、少人数学級についての御意見を伺います。

新たな県立高等学校再編計画の概要

「新たな県立高等学校再編計画」（平成 28 年 3 月 29 日策定）

平成 27 年に改訂された「今後の高等学校教育の基本的方向」を基本として策定した 2016 年度から 2025 年度までの 10 年間の計画であり、2016 年度から 2020 年度までの前期計画と 2021 年度から 2025 年度までの後期計画に分け、前期計画については統合、学科改編等の具体的な内容、後期計画については大まかな方向性を示しています。

1 基本的な考え方

地域の高校の存続を求める多くの意見や、各市町村における地方創生に向けた取組等を考慮し、望ましい学校規模の確保による「教育の質の保証」と、本県の地理的条件等を踏まえた「教育の機会の保障」を大きな柱としており、前期計画においては、小規模校の存続や、統合予定校における校舎制の導入、学級減を中心とした学級数調整を行うこととしています。

2 県立高等学校配置の考え方

生徒数の減少等を見通しながら、高校教育の質の維持、向上に向け、県全体のバランスを考慮し、望ましい学校規模の確保と適切な配置に努めます。なお、配置にあたっては、教育の機会の保障の観点にも充分配慮することとしています。

(1) 学校規模の基準

生徒の多様な学習ニーズに応え、集団生活による社会性を育成する観点から、望ましい学校規模は「原則 1 学年 4～6 学級程度」としています。ただし、生徒数が一層減少する状況にも考慮し、学校の最低規模は 1 学年 2 学級としています。

(2) 周辺の高校への通学が極端に困難である学校の取扱い

近隣の高校までの距離が遠く、仮に統合した場合、公共交通機関での通学が極端に困難となることが見込まれる地域の高校については、地域の学びの機会を保障するため、**学校の最低規模の特例として、1 学級でも存続させること**としています。（特例校：葛巻、西和賀、岩泉）

(3) 極端に生徒が減少した場合の統合の基準

特例校であっても、極端に生徒数が減少した場合には、教育の質の維持が著しく困難となるため、**入学者数が 2 年連続で 20 人以下となった場合には、原則として、翌年度から募集停止とし、統合を進めること**としています。

また、現在の 1 学級校にもこの統合基準を適用します。

(4) 統合に伴う校舎制の導入

一方、高校間の移動が容易で、かつ、大幅な定員割れが生じている場合には、**既存施設の有効活用も念頭に、複数の校舎を使用し、1 つの学校として機能させる校舎制も視野に入れて統合を進めること**としています。

小規模校のあり方について

1 再編計画における基本的な考え方

1 教育機会と教育環境の確保

少子化により生徒減少が続く状況において、広大な県土と多くの中山間地を抱える本県における「教育の機会の保障」は大きな課題となっています。

その一方で、集団生活を通じて社会性や協調性をはぐくむ場として、社会に羽ばたこうとする前段階の高校には、一定規模の人数による「教育の質の保証」が必要です。

そのため、市町村の地方創生に向けた取組も踏まえながら、全県的な視野に立ち、生徒にとってより良い教育環境の整備を進めることとしています。

2 小規模校の現状について

1 小規模校のメリット

生徒個々の進路希望の実現に向けて、きめ細かに指導を受けることが期待できます。また、学校行事等においては活躍の場が多くなることから満足度が高くなるとともに、活性化に向けて、地域と連携する機会が多くなります。

■小規模校における地域との連携した取組状況（H29～30）

地元の食材をいかした新しいレシピを考案し、地元商工会等の協力を得て文化祭を開催
高校生が主体となり、復興教育の一環として地元の小学生等との交流活動を実施
地域の小中高合同による文化発表会を開催（合唱、吹奏楽、海外派遣報告等）

2 小規模校の課題

各教科における科目開設や部活動の開設の幅が制限され、生徒の選択肢が狭まるとともに柔軟な教育活動の展開が図りにくくなります。また、多くの個性的な生徒と出会い、適度な切磋琢磨の中で自己を高めていく機会が限られるという課題もあります。

1 教育課程における科目の開設状況

- (1) 普通教科における科目開設数が少なくなり、生徒の興味関心のある科目の選択肢が狭められることもあります。
- (2) 各高校に配置される教員数は学級数により定められており、小規模校では普通教科の該当科目を専門とする教員の配置ができないこともあります。

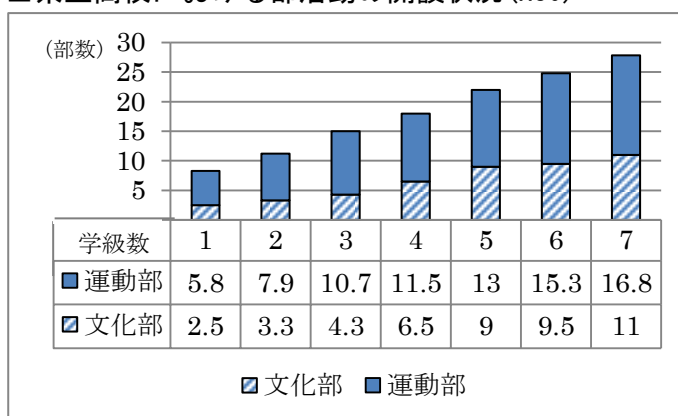
■県立高校における科目の開設状況（H30）

A高校（2学級）		B高校（6学級）	
【地歴】 世界史A 世界史B 地理A	【理科】 物理基礎 化学基礎 化学 生物基礎 生物	【地歴】 世界史A 世界史B 日本史A 日本史B 地理A 地理B	【理科】 科学と人間生活 物理基礎 物理 化学基礎 化学 生物基礎 生物 地学基礎 地学

2 部活動の開設状況

- (1) 生徒数の減少に伴い、各高校においては部活動の統廃合を行っており、学校規模が小さくなるほど団体競技の設置が困難となる傾向があります。
- (2) 小規模校では部員数の不足により、日々の充実した活動ができない部もみられます。

■ 県立高校における部活動の開設状況 (H30)



3 後期計画における小規模校のあり方の視点

県内の小規模校（1～3学級）は63校中29校となっており、全体の約46%と多い状況となっていますが、第1回地域検討会議では、地域に必要とされる小規模校については存続を望む意見を多数いただきました。

そこで、地域と連携しながら特色づくりに取り組む学校の現状について、次の視点からまとめました。

1 地域人材の育成に関する項目

■ 県内の小規模校の例 (H29～30)

項目	学校名	割合	教育活動の充実（自治体からの主な支援）
地元中学校からの入学者状況	A高校	80.0%	通学費、制服代、外部講習参加費等の補助、公営塾の整備等
	B高校	64.3%	通学費、寮費、模試・検定費、部活動運営費の補助等
管内事業所への就職者の状況	C高校	100.0%	地元商工会との連携による生徒の進路希望に即したインターンシップの実施等
	D高校	77.8%	管内企業、保育施設、介護施設、公共施設等におけるインターンシップの実施等
高校卒業後の進学者の状況	E高校	98.2%	自治体との共同による海外派遣事業（英語研修）への生徒派遣等
	F高校	69.6%	進学模試、進学課外講師派遣、キャリア教育推進事業費の補助等

※地元中学生とは旧市町村の中学生をさす。

2 その他、地域の活性化等に関する項目

- (1) 地域との協働により教育の質の向上を図っている学校
- (2) 地域スポーツとして県内の競技レベルを牽引する学校
- (3) 地域の伝統芸能（伝統文化）等を継承する役割を担う学校
- (4) 特別な支援を要する生徒等への対応を担う学校

4 本県における1学級校の取扱いについて

1 特例校について

再編計画では、広大な県土を有する本県の地理的条件等を考慮し、近隣に他の高校がなく他地域への通学が極端に困難な場合、地域における学びの機会を保障するために、特例として1学年1学級を最低規模として維持することとしています。

◎ 特例として扱う学校 葛巻、西和賀、岩泉

2 統合基準について

1学年1学級校として維持した場合においても、直近の入学者が2年連続して20人以下となった場合には、原則として翌年度から募集停止とし、統合することとしています。

【参考】他県における1学級校の存続に関する基準等の例

福島県	過疎・中山間地域の高等学校において、地理的条件や公共交通機関の状況等から、統合により近隣の高等学校への通学が極端に困難になり、当該地域の生徒の教育機会が著しく損なわれる場合や、 <u>地元からの入学者の割合が著しく高い場合</u> など、特別な事情がある場合には、1学級本校化を例外的に実施することとし、6校をその対象校とします。
広島県	1学年1学級規模の全日制高等学校については、各学校が学校関係者、所在する市町及び市町教育委員会等で構成する「 <u>学校活性化地域協議会</u> 」を設置し、その協議会において、教育活動や部活動において他校に見られない取組の強化等による活性化策を検討する。
高知県	不登校経験者や発達障害のある生徒等にも柔軟に対応ができる <u>支援体制を整えた学校</u> であり、特例として1学年1学級（20人以上）を最低規模とする。

少人数学級について

1 高校における少人数教育への取組状況

少人数学級とは、1学級の定員が40人の学級を35人等に減らした学級のことです。これに対して少人数教育とは、1学級の定員を40人としながらも、生徒の学習状況等に応じて学級を分割したり、複数の教員により学習指導を行うことをいいます。

1 少人数教育の取組例

項目	取組内容
習熟度別学習	生徒一人ひとりの特性に応じた教育を行うため、「数学」「英語」等について習熟度別に学習クラスを編成し、少人数による授業により学習の定着度を高める指導を行っています。
生徒の興味関心に応じた学習	普通教科・専門教科ともに選択科目を開設し、生徒の興味関心に応じた学習ができる体制としています。科目選択については、教科内の科目を選択するパターンと、複数の教科から選択するパターンがあります。
進路別学習（進学）	「理科」「地理歴史」等について、生徒が希望する進路先（文科系・理科系）の受験科目に合わせた科目選択を可能とし、受験に対応できる応用力を育む指導を行っています。
進路別学習（就職）	「商業」等の専門科目や、「学校設定教科・科目」を開設することにより、幅広い教養（知識）を身に付けるとともに、各種検定・資格取得にも挑戦できる指導を行っています。
実習における少人数指導	職業に関する学科（農業、工業、商業、水産、家庭）の実習については、安全確保と技術習得に向けた指導をきめ細かく行うため少人数のグループを編成し、専門性を高める指導を行っています。
ティーム・ティーチング	生徒一人ひとりの特性に応じたきめ細かな教育を行うため、複数の教員が授業担当となり、主担当と副担当として役割を分担し、協力し合いながら指導を行っています。
特別な支援を要する生徒等への対応	学校生活への適応が難しい場面がある生徒に対応するため、生徒の各課題に応じた適切な指導や支援を行うことで、生徒が安心した学校生活を送ることができる体制づくりを行っています。

各学校では、学校の特長や生徒個々の学習状況等に応じた少人数教育に取り組み、生徒の多様な進路希望の実現に向けて工夫をしています。
このためには、各学校における教員数の確保が大切になります。

2 少人数学級と教員配置の関係

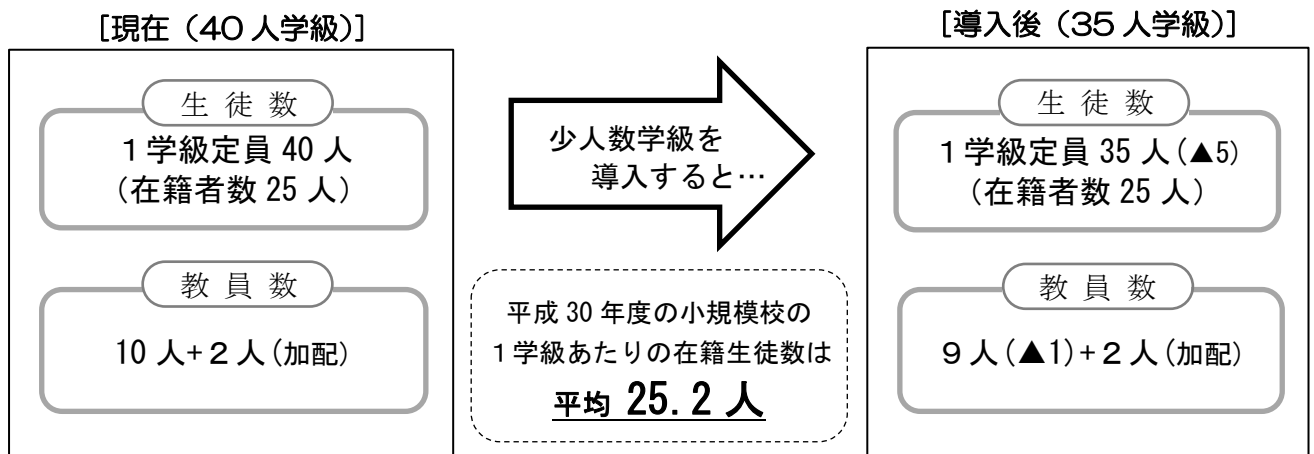
1 教員配置について

公立高校における教員定数は、1学級定員は40人を標準とする「公立高等学校の適正配置及び教職員定数の標準等に関する法律」（高校標準法）において定められ、同法により算出された教職員の人件費等を国が財政措置（地方交付税）を行っています。

このため、1学級定員を35人等にする少人数学級を導入した場合、県全体の教員定数が減少し、各学校に配置される教員数が少なくなることとなります。

※小学校や中学校等の教員定数は、学級数を基準に算出されます。

2 少人数学級を導入した場合（イメージ）



※必ずしも加配があるとは限りません

現行制度のままで少人数学級を導入した場合、在籍生徒数が変わらないまま、教員数のみが減少します。

【参考】高校標準法に基づく教員定数のイメージ（普通科の場合）

規模	項目	40人学級	⇒	35人学級
1学級校	生徒定員	120人（1学級×40人×3学年）	⇒	105人（1学級×35人×3学年）
	教員数	9人		8人
2学級校	生徒定員	240人（2学級×40人×3学年）	⇒	210人（2学級×35人×3学年）
	教員数	17人		16人
3学級校	生徒定員	360人（3学級×40人×3学年）	⇒	315人（3学級×35人×3学年）
	教員数	25人		21人
4学級校	生徒定員	480人（4学級×40人×3学年）	⇒	420人（4学級×35人×3学年）
	教員数	31人		27人

3 少人数学級の導入状況

1 少人数学級を導入している都道府県

28/47 都道府県中 (59.6%)

(※東北では、青森県、秋田県、福島県で導入)

すべての学級を少人数にするのではなく、専門学科を中心に導入しています（財政負担が大きくなるため、独自の教員加配は難しい状況にあります）。

2 本県における少人数学級について

本県においては多くの高校が定員割れであることから実質的な「少人数学級」の状況であり、各学校の教員を多く配置できるよう、1学級定員を40人としています。

少人数学級の安定的実施を図るためには、国における教職員定数制度の見直し及びこれに伴う財政措置が不可欠であり、県としては、これまでも制度改善の要望を行っています。

県立高等学校の全県、ブロック別入試状況（全日制）

【全県の入試状況】

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	10,200	0.93	9,013	▲1,187
28	10,200	0.94	8,989	▲1,211
29	10,120	0.92	8,673	▲1,447
30	9,800	0.90	8,475	▲1,325
31	9,440	0.89	8,044	▲1,396

【ブロック別の入試状況】

■ 盛岡ブロック

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	3,080	1.09	2,948	▲132
28	3,080	1.13	2,907	▲173
29	3,080	1.15	2,925	▲155
30	3,040	1.06	2,906	▲134
31	2,960	1.04	2,761	▲199

※ 盛岡市立高校は含まれていない

■ 岩手中部ブロック

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	1,560	0.99	1,461	▲99
28	1,560	1.00	1,500	▲60
29	1,560	1.03	1,476	▲84
30	1,520	0.94	1,430	▲90
31	1,520	1.00	1,452	▲68

■ 胆江ブロック

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	1,040	0.93	939	▲101
28	1,040	0.87	897	▲143
29	1,040	0.79	832	▲208
30	1,000	0.86	841	▲159
31	960	0.80	765	▲195

■ 両磐ブロック

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	1,040	0.95	953	▲87
28	1,040	1.04	1,008	▲32
29	1,040	0.88	892	▲148
30	1,000	0.98	919	▲81
31	960	0.95	840	▲120

■ 気仙ブロック

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	640	0.86	550	▲90
28	640	0.80	507	▲133
29	640	0.77	497	▲143
30	600	0.72	435	▲165
31	560	0.75	424	▲136

■ 釜石・遠野ブロック

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	760	0.73	554	▲206
28	760	0.76	577	▲183
29	720	0.74	534	▲186
30	640	0.77	493	▲147
31	640	0.77	500	▲140

■ 宮古ブロック

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	840	0.76	645	▲195
28	840	0.78	642	▲198
29	840	0.71	600	▲240
30	840	0.73	620	▲220
31	800	0.66	533	▲267

■ 久慈ブロックの入試状況

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	680	0.83	567	▲113
28	680	0.78	536	▲144
29	680	0.73	500	▲180
30	640	0.71	460	▲180
31	560	0.89	415	▲145

■ 二戸ブロックの入試状況

年度	定員	一般入試倍率	総合格者数	過不足
27	560	0.67	396	▲164
28	560	0.71	415	▲145
29	520	0.77	417	▲103
30	520	0.69	371	▲149
31	480	0.70	354	▲126

県立高等学校における学校規模別の設置状況（全日制）

■ 平成 31 年度（2019 年度）の状況

学校規模	学校数	割合	学校名
7 学級	4	6.3%	盛岡第一、盛岡第三、不来方、盛岡工業
6 学級	11	17.5%	盛岡第四、盛岡北、盛岡南、盛岡商業、花巻北、黒沢尻北、北上翔南、黒沢尻工業、水沢、一関第一、宮古
5 学級	9	14.3%	盛岡第二、盛岡農業、紫波総合、花巻南、一関第二、千厩、高田、釜石、久慈東
4 学級	10	15.9%	花北青雲、水沢工業、岩谷堂、一関工業、大船渡、大船渡東、遠野、宮古商業、久慈、福岡
3 学級	7	11.1%	花巻農業、水沢商業、金ヶ崎、大東、釜石商工、宮古工業、一戸
2 学級	14	22.2%	沼宮内、葛巻、平館、水沢農業、前沢、遠野緑峰、大槌、山田、宮古水産、岩泉、久慈工業、種市、軽米、福岡工業
1 学級	8	12.7%	雫石、大迫、西和賀、花泉、住田、宮古北、大野、伊保内
計	63	100%	

※学級数は1学年の学級数をさす。

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第1回）の報告

学校調整課高校改革担当

1 実施状況

ブロック名	ブロック内市町村名	実施日時	会場	出席者数（事務局を除く）				
				会議構成員	県議会議員	県立高校長	一般傍聴	報道関係
盛岡①	八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町	1月7日（月） 14:00～16:00	岩手県公会堂	21	5	7	5	1
盛岡②	盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町	1月28日（月） 10:00～12:00	岩手県公会堂	17	6	13	4	3
岩手中部	花巻市、北上市、西和賀町	2月8日（金） 10:00～12:00	北上市文化会館 さくらホール	16	7	9	9	2
胆江	奥州市、金ヶ崎町	12月25日（火） 10:00～12:00	奥州市江刺総合支所	10	3	8	2	4
両磐	一関市、平泉町	1月18日（金） 10:00～12:00	一関地区合同庁舎	11	4	6	3	4
気仙	大船渡市、陸前高田市、住田町	2月7日（木） 14:00～16:00	大船渡地区合同庁舎	14	0	4	4	2
釜石・遠野	釜石市、遠野市、大槌町	12月27日（木） 14:00～16:00	釜石市民ホール tetto	15	2	5	7	2
宮古	宮古市、山田町、岩泉町、田野畑村	1月15日（火） 14:00～16:00	シートピアなあと	21	2	7	6	1
久慈	久慈市、洋野町、普代村、野田村	2月4日（月） 14:00～16:00	久慈地区合同庁舎	19	2	5	6	3
二戸	二戸市、軽米町、九戸村、一戸町	12月26日（水） 10:00～12:00	一戸町コミュニティセンター	20	2	5	3	0
計				164	33	69	49	22
				337				

2 会議内容

- (1) 本県の高等学校教育の現状について説明
- (2) 後期計画策定に向けた意見交換

[テーマ]

都市部、中山間地・沿岸部における今後の高校のあり方について

3 主な意見等

- ・ 統合は最小限とし、小規模校の教育環境面の課題解決の方法を考えていくべき。
- ・ 地域の人材育成という視点で高校再編を考えてほしい。
- ・ 地域や産業界と連携して魅力ある学校づくりを進めてほしい。
- ・ その他、県外からの生徒の受入れ制度の確立、30～35人の少人数学級の導入等、統合における通学支援や寮の設置等、様々な意見があった。

4 各ブロックにおける主な意見、提言等の項目一覧

ブロック	主な意見・提言等（項目のみ）
盛岡① (八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外生徒の受入れ ・ 高校は町存続の鍵 ・ 外国からの生徒受け入れ ・ 地域産業の担い手育成 ・ 市町村との連携 ・ AI などの技術革新への対応 ・ 学校規模の確保による学校の魅力づくり ・ 外国人が学べる環境整備 ・ キャリア教育の推進 ・ 農業教育の充実 ・ 工業系人材の育成・確保 ・ 通学や下宿などの支援 ・ 公立高校の魅力向上 ・ 少人数学級の導入 ・ 小規模校への教員加配
盛岡② (盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高校の存続 ・ 県外生徒の受入れ ・ 地域を担う人材育成 ・ 少人数学級の導入 ・ 中高連携 ・ 地域の産業界との連携 ・ 地域人材を活用 ・ 少子化の防止策 ・ 地域企業の理解促進 ・ 産業人材の確保・育成 ・ 専門学科の存続 ・ 寮等の生活環境整備 ・ 中山間地等の小規模校維持 ・ 高校生の地域活動の参加 ・ 私立高校との協力体制 ・ 中山間地の教育環境の確保 ・ 特別な支援を必要とする生徒への対応 ・ 人口が減少しない地域の学級数維持 ・ 教育の質の維持のための教員加配
岩手中部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の高校の魅力低下が課題 ・ 実績のある高校は盛岡に集中 ・ 高校は地域への人材供給機関 ・ 高校再編は地域へ与える影響大 ・ 地域と高校の連携協働が重要 ・ 「特例校」制度の維持 ・ 小規模校への教員定数配慮 ・ 高校の魅力づくりは必要不可欠 ・ 社会貢献活動が大事 ・ 社会情勢の変化も考慮 ・ 専門学科の配置は全県的な視野で検討 ・ インターンシップ事業の更なる強化 ・ 少人数学級の検討 ・ 小中学校との連携 ・ 地域や産業界と連携したキャリア教育 ・ 県外からの入学志願者の受入れ ・ 小規模校の価値を高める取組 ・ 通学手段 ・ 制服のデザイン見直し ・ 優れた資質能力を備えた教員の確保 ・ 併設型中高一貫教育校の新設 ・ 前期計画を検証する期間の設定 ・ ものづくり産業人材の不足 ・ 特別な支援を要する生徒に対する適切な指導 ・ 一定の「競争」ができる環境は必要
胆 江	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の学校の存続 ・ I T等の新技術の有効活用 ・ 部活動のあり方の検討 ・ コミュニティスクールとして地域と協働 ・ 地域ごとの対応 ・ 学ぶ機会を保障 ・ 農業に関する学科の存続 ・ 少人数学級の導入 ・ 情報化社会に適応した教育プログラム ・ 高校生の地元定着 ・ 将来的に地元に戻ってくる人材を育成 ・ 部活動の活性化やI T教育の推進による魅力づくり ・ 教員の資質向上 ・ 地域ごとの学校規模の基準 ・ 県の計画との整合性 ・ 地域産業の担い手を確保 ・ 生徒が地元に残る仕組みや制度の検討 ・ 学校と地域が連携した地域の活性化 ・ 義務教育と高校教育の連携
両 磐	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域産業の担い手育成 ・ 私立高校との協力体制 ・ 再編計画の確実な実行 ・ 学校と地域の連携 ・ 高校の魅力化 ・ 通学や下宿などの支援 ・ 6次産業化に向けた高校教育 ・ 特徴的な学科の設置 ・ 部活動のあり方 ・ 1学年1学級校のあり方 ・ 一定の学校規模の必要性 ・ 特別な支援を要する生徒への対応 ・ 少人数学級の導入
気 仙	<ul style="list-style-type: none"> ・ 通学支援策 ・ 外国人が学べる環境整備 ・ 高校の魅力化 ・ 地域の産業界との連携 ・ 水産業の担い手育成 ・ 少人数学級の導入 ・ 地域の学校の存続 ・ I T等の新技術の有効活用 ・ 学校と地域の連携 ・ 中山間地等の小規模校維持 ・ 高校生の地域課題への取組 ・ 学区の見直し ・ 各高校の魅力の情報発信 ・ 地域企業の理解促進 ・ 産業人材の確保・育成
釜石・遠野	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の人材確保 ・ 専攻科の設置 ・ 三陸水産研究センターや釜石・大槌地域産業育成センター等との連携 ・ 少人数学級の導入 ・ 学校と地域の連携 ・ 高校生の地域の理解 ・ 部活動のあり方 ・ 農業の担い手育成 ・ 様々な産業に対応する学びの機会 ・ 学校規模及び生徒数の確保 ・ 内陸部への生徒の流出 ・ 通学支援策 ・ 地域の高校の存続 ・ キャリア教育の充実 ・ 各高校の魅力の情報発信 ・ 高校生の地域課題への取組 ・ 地域を支える人材の育成 ・ 高校と義務教育の連携 ・ 中学生の選択肢の確保 ・ 新しい仕組みや枠組み

宮 古	<p>・専門高校の魅力向上 ・地域産業の担い手育成 ・都市部に一極集中 ・都市部の学級減 ・地域で学ぶ教育環境 ・産業界の高校への支援 ・進学に特化したクラス設置 ・教員の育成 ・連携型の中高一貫教育校 ・高校生は地域の活性化 ・専門教育の維持 ・通学支援 ・地域の高校の存続 ・地域外への生徒流出 ・学校と企業等の連携強化 ・地域産業の活性化 ・統合による学校の活性化の期待 ・高校生の地域理解の取組 ・少人数学級の導入 ・私立高校に負けない魅力ある学校づくり ・部活動のあり方</p>
久 慈	<p>・学級減の際の学力保証 ・学校の適正規模の見直し ・地域の高校への支援 ・小規模校を維持する工夫 ・地域人材の育成 ・魅力ある学校へ向けた産業界の支援 ・教員の確保 ・土木建築関係の学科の存続 ・地元に着した教育 ・教育の質の維持に向けた定員確保 ・専門人材の育成 ・県外への生徒の流出 ・少人数学級の導入 ・学校、学科の維持 ・一定規模を確保 ・学級減に対する教員加配 ・郷土愛を育む視点</p>
二 戸	<p>・地元の高校生が地域の活力 ・地域の将来を担う人材育成 ・特色のある再編 ・県全体のバランスを考えた配置 ・地域の高校の存続に向けた地域の協力 ・小規模校の存続と環境づくり ・地域を担う人材は地域で育成 ・福祉系の学びの維持 ・進路目標の多様化への対応 ・人材確保のための高校存続 ・地域社会との連携強化 ・地域との協働による学校の魅力づくり ・小規模校への教員配置の配慮 ・冬のスポーツによる学校の活性化 ・第一次産業の発展に向けた学校と現場の連携 ・バランスの取れた学科の配置 ・部活動のあり方の見直し ・教育関連予算の確保 ・中学生が大規模校を望む意見の尊重 ・通学支援策 ・少人数学級の導入</p>

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第1回盛岡ブロック①）会議録
【盛岡ブロック①：八幡平市、岩手町、滝沢市、紫波町】

○ 日 時：平成31年1月7日（月）14時00分～16時00分

○ 場 所：岩手県公会堂 21号室

○ 出席者

① 会議構成員

八幡平市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

岩手町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

滝沢市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

紫波町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

盛岡教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般5人、報道1人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

(1) 本県の高等学校教育の現状について

【県教委】

- ・ 本県の高等学校教育の現状について、事務局から説明をお願いします。

【県教委】

- ・ 資料 No. 1 「岩手県における中学校卒業生数及び高校入学者数の推移」、資料 No. 2 「再編計画策定に係る取組及び「後期計画」検討スケジュール」、資料 No. 3-1 「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料 No. 3-2 「新たな県立高等学校再編計画（前期計画）の推進状況」、資料 No. 3-3 「高校教育を巡る最近の動き」、資料 No. 4 「県立高等学校の入試状況の推移（全日制）」、資料 No. 5 「中学生の進路希望等に関するアンケート結果」に基づき説明。

【平澤 岩手町教育委員会教育長】

- ・ 平成31年1月4日の新聞に「高校普通科を抜本改革」という記事が掲載された。この内容によっては今後の高校再編における考え方が根本から変わる可能性が考えられるため、詳しい情報があれば教えて欲しい。

【県教委】

- ・ 文部科学省から正式に発表されたものではないため、現在のところは詳しい情報はない。今後、動きかがあった場合については情報提供させていただきたい。

(2) 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

都市部、中山間地・沿岸部における今後の高校のあり方について

【県教委】

- ・ 本県の高等学校教育の現状と課題を踏まえ、意見交換テーマに基づいた御意見をいただきました。

【田村 八幡平市長】

- ・ 以前、県議会議員として商工文教委員会に所属しており、学校教育、特に高校教育については高い関心を持っていた。当時の委員会では総合学科の設置に関する議題が多かったが、生徒の減少を見据え高校再編についても検討していれば良かったのではないかと反省している。
- ・ 昨年 10 月、県内全市町村を会員とする「岩手の高校教育を考える市町村長懇談会」を設立した。当初は「統合反対」「学級減反対」という意見が強かったが、「今後の岩手の高校教育をどのように進めていくか真剣に検討すべき」「今後の岩手県を担っていく高校生をどのように育てていくかについて考えていこう」と意見がまとまり、「〇〇反対」という項目を削除することになった。
- ・ 平成 30 年 8 月の文部科学省の通知では、地域と高校が密接に連携をとりながら教育を進めていく重要性を示しており、高校入学者数が減少するため高校を統合するという旧来の考え方ではなく、時代が変化する中、どのようにしたら岩手を支えていく子供達を育てていくことができるのかという考えで高校再編を検討していただきたい。
- ・ 岩手の高校に入学したいという県外生徒の受入れをしやすいような環境を作ってほしい。県外からの生徒の受入れについてはこれまでも様々な場面で意見を述べてきたが、現在の再編計画には盛り込まれていない。今後の検討会議では県外受入れも視野に検討を進めていただきたい。

【佐々木 岩手町長】

- ・ 町の経営者である町長として、人口減少の課題に立ち向かっていかなければならず、危機感を持っている。
- ・ 高校が町に存在することは、人口を保つ大事な要素の一つであり、高校の存続は町づくりと直結している。文部科学省の通知では多方面での様々な地域との連携が謳われているが、それを具現化していく再編改革を策定していかなければならないと考えている。
- ・ 高校が小規模校化していくとしても高校が町にあるということは、町が存続していくためのキーになると考えている。そのためには県外からの生徒の受入れだけでなく、東南アジアなど外国から入学生を受け入れる等の視点が必要であると考えている。これまでの感覚ではなく、経営的な感覚で制度設計をしていくことが大切であると思う。
- ・ 20 年後、人口は現在の約半数になると予測され、今後いかに地域人材を育成していくかが、町の存続のキーになる。

【熊谷 紫波町長】

- ・ 現在の再編計画については、ある程度、県の実情に配慮したものであり、評価すべきものであると考えている。
- ・ 自治体に高校がないということは運営上マイナスであると、どこの市町村も考えており、今後の地域を担っていく人材育成のためには、高校は必要である。
- ・ 紫波町には紫波総合高校が設置されているが、総合学科の位置づけや教育内容を精査する時期が来たのではないかと。農業高校、商業高校、工業高校等の専門学科の入学生も減ってきている中、総合学科の教育内容を精査し、魅力のある学科としていってほしい。

【遠藤 八幡平市商工会事務局長】

- ・ 本県のみならず全国的に地域産業を支える担い手が不足しており、その確保が大きな課題となっており、地域における高校の役割がクローズアップされてきている。
- ・ 八幡平市には平舘高校が設置されているが、地域の伝統行事等にも積極的に参加しており、地元企業からは積極的に卒業生を受け入れたいという声もある。平舘高校においては進学する生徒も増加し、就職希望者が減ってきているが、ほぼ 100%の就職率を維持してきている。
- ・ 広大な県土である本県の特長や観光資源等を踏まえながら、高校再編について協議してほしい。今年度はラグビーワールドカップ、来年度はオリンピックが開催され、本県でもインバウンドによる外国人観光客が増加してきている。グローバル化が進んでいる中、小中高校におけるキャリア教育などを通し、県内それぞれの地域の特色を踏まえながら、各市町村との連携を深めた教育についても検討していただきたい。

【小澤 新岩手農業協同組合常務理事】

- ・ 今後の農業を考えた場合、AI などの技術革新を取り込めるような後継者の育成をしていく必要がある、そのような教育ができる農業高校にしてほしいと考えている。
- ・ 各市町村に高校が設置されている方がよいと思うが、中学校卒業予定者数が減少していく中では、高校を統合し魅力ある高校をつくっていくことも、やむを得ないと考えている。統合し、多様な学科を設置する高校をつくり、中学生にとって魅力のある高校としていくことも必要である。
- ・ 高校を統合する場合には、保護者の負担とならないように、民間業者などと契約し、通学が困難な生徒のための寮の設置などの環境整備や助成が必要ではないか。寮を整備することで県外生徒を受け入れることができる。また、統合による学級数の増加は部活動の活性化にもつながり、このような取組が学校の魅力づくりになると考えられる。
- ・ 望ましい学校規模を 4 学級以上としているが、ある程度の学校規模を確保することは学校の魅力づくりにつながると考えられる。中学生が望む学習環境や部活動等を整備するという視点で高校再編を検討してほしい。

【八戸 岩手町商工会 会長】

- ・ 県内の中小企業では人材不足が課題となっている。高校においては優秀な人材の育成に努めてほしい。
- ・ 現在、地域にある各高校はそれぞれ存在価値があるので存続してほしい。
- ・ 地元の沼宮内高校は町と連携し、生徒数を増やそうと様々な取組を実施している。そのような地域の取組状況も考慮しながら高校再編について検討していただきたい。
- ・ 県外からの生徒の受入れも認めていく必要があると考えている。沼宮内高校の特色の一つにホッケー部があるが、現在は町内の選手が中心である。県外からの入学希望者もあるので県外生徒の受入れについても検討していただきたい。

【福士 岩手町農業委員会】

- ・ 農業は現在転換期を迎えており、ピンチをチャンスに変えていこうとしているところである。
- ・ スマート農業に向け取り組んでいるが、高校では AI 等を使いこなせる次世代を担う人材を育ててほしいと考えている。また、岩手県の県民性である優しさや思いやりのある子どもたちを育てるとともに、ピンチをチャンスに変えて動けるような多様性を身に付けさせてほしい。

【阿部 滝沢市商工会長】

- ・ 中小企業の課題としては、少子化の問題もあるが、高齢化という問題もある。
- ・ 参考資料No.5（平成30年度中学生の進路希望等に関するアンケート）の設問11「10年後どこに住んでいると思いますか」の回答では、中学生の県外への流出希望が強く、将来に不安を感じた。
- ・ 現在、子供たちの目線に立って、企業でも就業環境の改善等に取り組んでいるが、少子化とはいえ、高校再編についても前向きに検討してほしい。
- ・ 仕事柄、年2回程度東南アジアを訪問するが、現地には高校卒業後に日本で働きながら学びたいという者が相当数いる。今後は外国人が学べる環境が必要になることが考えられ、その検討を進めることで前向きに高校再編を考えていくことができるのではないかと。
- ・ 幼稚園、小学校、中学校、高校と子供が育っていく中では広がりが必要であり、高校の学級規模は2学級以上、更に4から6学級程度が一般的には望ましいと思う。しかし、地域によっては様々な事情等があるので、検討の中で地域の意見を十分に取り入れて進めてほしい。

【田沼 新岩手農業協同組合滝沢支所長】

- ・ 高校教育では、もっと地域に目を向けた教育が必要ではないか。就職希望の生徒に対しては、どのような業種があるかよく理解し、進路選択できるようにキャリア教育を進めていく必要がある。また、進学希望の生徒に対しても、単に大学に入学したいではなく、大学進学後にどのような職業に就きたいかを見据えた進学指導が必要である。
- ・ 中学生が希望する高校に進学できる環境づくりも必要であるが、もし、希望校に合格できなくても、再チャレンジできるような体制づくりが必要であると思う。

【細川 岩手県農業農村指導士】

- ・ 参考資料No.5（平成30年度中学生の進路希望等に関するアンケート）の農業科の希望が約3%であったの見て、あまりにも希望者が少なく愕然とした。しかし、現在、県内には農業学科が14学級あることで安心した。
- ・ 高校を卒業して直ちに就農するということは難しく、また、就農を目指す大学生も少ない。高校で農業の魅力伝える教育をしていかなければ、卒業後に就農せず、安易に進学を選んでしまう。
- ・ 農業をしていくには規模や条件等があるため、全ての希望者が就農できるわけではないという課題があるが、農業経営についての学習など、就農に向けた教育内容を充実してほしい。
- ・ 地元の紫波総合高校では農業科目を選択し、学習できる環境にはあるが、総合学科ではもう少し専門的な農業を学べる環境を整えてほしい。

【富岡 (株)富岡鉄工所代表取締役】

- ・ 紫波地区は開発が進み、宅地が増えていることから中学生の減少は少ないと感じているが、紫波総合高校では町外の生徒が半数以上であり、2020年度の学級減についてはやむを得ないと考えている。
- ・ しかし、紫波総合高校の生徒は夏祭りボランティアへ参加したり、実習で作ったジャム販売での地元企業と連携等を行い、魅力ある学校づくりに取り組んでいる。今後も、入学者確保に向け地元企業としても努力していかなければならないと感じている。
- ・ 再編計画では、社会情勢の変化によっては学級減の延期もありえるとの説明があった。自動車産業、半導体、IICが岩手の主幹産業になりえるとの新聞報道等がある状況の中で、再編計画では盛岡工業高校の1学級減が示されている。どの学科が減るかについてはまだわからないが、これから岩手を支える人材として工業系人材は必要ではないか。人口減少や少子化による

高校再編と工業高校の再編は別に検討していただきたい。

- ・ 今年度入試では電気科が定員を割っているが、これまで高い入試倍率が続いていた。特に土木科の倍率が高く、これは小学生の時に震災を経験した子供たちが、何らかの思いを持って高校を希望しているからではないか。また、建設業協会を通じた様々な取組の成果もあるのではないかと考えている。
- ・ 高卒求人数が増加する中、特に土木技術者が足りないといわれており、県内においても土木の人材確保が課題となっている。盛岡工業高校には県内唯一の建築デザイン科もある。工業技術者の人材育成が切望されている状況の中では、工業高校の再編は現在の社会情勢には合わないのではないかと考えており、再度検討していただきたい。

【齊藤 八幡平市PTA連絡協議会】

- ・ 高校1年生の息子がいるが、交通の便などから平舘高校には入学せず、秋田県の花輪高校に入学した。交通の利便性向上、通学や下宿などの支援があれば、県内の色々な高校の選択肢が増えるのではないか。
- ・ 八幡平市内の小中学校の校長、副校長が同時に異動することが頻繁すぎると感じている。このことについて、八幡平市教委に対して要望したが、人事については県教委の管轄だと言われた。地域振興や教育振興を考えていく上で、学校の管理職が同時に異動することは様々な活動が阻害されるため配慮してほしい。

【松浦 岩手町PTA連合会】

- ・ 地元の高校がなくなると、高校への通学が不便になり、保護者の負担増につながる。

【山口 滝沢市PTA連絡協議会】

- ・ 盛岡農業高校を希望する生徒が多いが、将来農業をしたいと考えて入学しているのではなく、保護者の負担を考えて、本当の希望の高校へは入学せず、家から近い高校を選択するケースがあると思う。
- ・ 魅力ある県立高校は少ないと感じている。私立高校はオープンスクールを開催しており、高校の魅力を発信している。
- ・ 県立高校は私立高校に比べて部活動の面での魅力が少ない。学習面も大切であるが部活動の魅力も大事だと思う。地域と協力しながら魅力ある県立高校を目指すことで入学生が増えるのではないか。
- ・ 私立高校のように県外からの生徒も受入れながら、魅力ある県立高校をつくっていったらよいのではないか。

【森川 紫波町PTA連合会長】

- ・ 地域の学校の役割を重視しながら再編計画を進めていくとのことであるが、地域のニーズや実情については各高校が良く理解していると思うので、各校の特色づくりにおいては各校に裁量を十分に持たせてあげてほしい。
- ・ 学校経営を考えるとトップの校長、副校長を一定期間留めておくような人事配置が必要ではないか。短期間に異動してしまうようでは、特色ある学校を作ったとしても絵に描いた餅のようになるのではないか。

【星 八幡平市教育委員会教育長】

- ・ 12月の市議会において、平舘高校の1学級減についての質問が出されており、市議会議員も

危機感を感じている。平館高校の卒業生は地域産業の担い手になっていることから、今後の状況について様々な質問が出された。

- ・ 八幡平市では、これまで平館高校に対する様々な支援を行っており、今後も新たな支援策を考えていきたいと思っている。
- ・ 来年度から平館高校が1学級減になるが、教職員も2、3名ほど減になるのではないかと考えている。その場合、マンパワー不足から進路希望に対応する科目の開設が困難になるのではないかと心配がある。
- ・ 平館高校の普通科は毎年50名程度の入学者があるが、2学級のため1学級25人程度の少人数指導が可能であった。1学級減になると1学級40名での指導となることが想定され、個別の支援が難しくなるのではないかと。
- ・ 学級減に対する激変緩和措置としての教員加配等、支援策については県教委ではどのように考えているのか伺いたい。これは平館高校のみではなく県内全ての高校では学級減等によって生じる課題だと思う。後期計画を策定していく上でも、学級減等に関しての県の支援策の担保があれば地域にとって納得できる計画になるのではないかと。

【平澤 岩手町教育委員会教育長】

- ・ アンケート結果を見ると普通高校を希望する生徒が若干増加したとのことであったが、この理由としては、将来の目標を見つけられない生徒が将来の方向性を決められず普通高校を希望する傾向が多いことが考えられる。その結果が普通高校を希望している生徒が多いということであり、中学生の希望のみを判断材料として設置学科を決めることはできないのではないかと。
- ・ 将来は畜産業に就きたいために盛岡農業高校を希望する生徒や、1年生の時から工業関係を学びたいから盛岡工業高校を希望し、もし叶わなければ福岡工業高校という将来の方向性をしっかり持った生徒もいる。中学校では職場体験等も実施しながらキャリア教育にも力を入れているが進路アンケートを実施すると6割が普通高校を希望するという状況もある。
- ・ 平成30年1月4日の新聞に高校普通科を抜本改革という記事があった。課題を見つけ、その解決方法について集団で討議し課題解決していく学習に小中学校では力を入れて取り組んでいる。高校においても地域課題の解決学習の取組が進んでいけば、町内での高校生の活動が増え、その高校生のパワーを地域の方々ももらい、地域の活性化につながっていくのではないかと。これが実現するよう新聞報道の内容が具体化するまで後期計画の策定は延期してもよいのではないかと。
- ・ 魅力ある教育課程としていくために、高校教育においては教科横断的な学習が求められており、高校教員はもっと研鑽を積んでいかなければならないと感じている。
- ・ 再編計画においては1学級定員40人の規準で判断しているが、その判断基準を見直してほしい。
- ・ 岩手町では4年間で小中学校6校閉校したが、その判断基準は「複式学級の解消」、「中学校は学年2学級以上」の2項目である。統合前は、1学級で教員1人、生徒1人の1対1の授業を行っており、学校教育とはいい難い状況が続いていた。地域の合意形成を図り統合を行ってきたが、高校教育の場合は、統合は地域の存続に関わる問題である。
- ・ 生徒数のみで判断するのではなく、高校再編計画は様々な意見を踏まえて策定されたものであることは理解しているが、今後の国の動きを見ながら、柔軟に考え、市町村との連携等も含めながら、より良い後期計画の策定に取り組んでいただきたい。

【熊谷 滝沢市教育委員会教育長】

- ・ 平成27年度の再編計画の策定時にも地域検討会議に参加させていただいたが、様々な意見

を集約し策定された再編計画であると評価している。

- ・ 県内に魅力ある高校ができて生徒が選択できるようになればよいと思う。

【侘美 紫波町教育委員会教育長】

- ・ なぜこのような後期計画を策定したのかという理由をしっかりとしたものとしていければよいと思う。
- ・ 紫波町のオガール（公民連携による紫波中央駅前に広がるまちの開発事業）はある程度盛り上がってきているが、専門家からはこのままでは将来的には廃れるとの意見をいただいている。縮減時代にどのように対応していくかということを考え、多様性をもって対応していかなければ事業の継続も危うくなっていく。
- ・ 現状説明では society5.0 にも触れていたが、今後の教育においては理数系と文系を融合させていったほうがよいとの意見もあり、これからは、職業観や職種も変化していくことについて子供たちに適切に教えていく必要がある。
- ・ 紫波町教委では花北青雲高校卒の2名を採用し、盛岡工業高校からも2名配置になったが、使命感を持ち、大変よく働いてくれている。高校教育においては、卒業後に直接就職する生徒への対応、進学への対応等様々な選択肢へ対応できる環境が必要である。
- ・ 紫波総合高校の入学生は、約6割が盛岡市や北上市など町外からの入学生である。中学生が希望する高校としていくためには、総合学科として既存の系列だけではなく横断的な何か新しい系列もあったほうが魅力が高まるのではないか。例えば起業など新しい社会に挑戦できる仕組みはどうか。人生100年時代であり、退職後40年生きていくための基になる考え方を身に付けることができる系列をつくれれば、更に町外から入学生を呼び寄せることができ学校の魅力が高まると思う。

【小山 岩手地区中学校長会】

- ・ 中学校卒業生数が減ることによって倍率が下がり、学習意欲の低下につながることへの懸念が中学校教員間で話題になる。
- ・ 生徒と面談をすると、高校選択理由としては部活動の面が大きいと感じている。高校卒業後の進路については高校に入学してから考えたいという生徒が多いので、各校でもっと魅力ある特色を出して欲しい。
- ・ 中山間部や沿岸部の高校の生徒の学力差は大きく、また多様な進路に対応していかなければならないため、教職員の配置については配慮していかなければならないのではないかと。

【内田 紫波郡中学校長会】

- ・ 県北の山間部の学校に勤務したことがあるが、家庭事情や交通の便が悪いこと等で希望の高校への進学をあきらめていた生徒がいた。岩手県は県土が広いので、魅力的な学校があっても、その学校へ通学ができない場合があるため、スクールバスなどの通学支援が必要なのではないか。
- ・ 現在の勤務校では工業高校を希望する生徒が多い。部活動で希望する生徒もいるが、将来は電気関係の職業に就きたいなど目的意識がはっきりしている生徒もいる。どのような学習ができるか高校のイメージをしっかり持つことができれば高校を選択できるが、高校でどんな授業をしているのかわからない生徒、進路の目標を見つけられない生徒は普通高校を選択する傾向が強い。
- ・ これからどんな社会になっていくのか、どのような人材が必要とされるのかをイメージできる授業があれば魅力的であると思う。県内の子ども達はなんとなく入れる高校を選ぶ傾向がみ

られ、活力が弱く、おとなしくなりすぎていると感じている。

- ・ 地方で世界と勝負しようという意気込みを持てるように、他県であるような地元企業と大学の提携による研究というような取組を実施していければよいと思う。

【県教委】

- ・ 県外からの生徒の受入れに関しては、昨年度から2年間、有識者による検討を進めていただき、その検討内容をまとめ、8月に報告書をいただいている。その中では県内の生徒の学ぶ機会の確保に配慮することを前提とした上で、ある程度の県外からの生徒の受入れを認めるべきとの提言をいただいている。また、県外から受け入れる場合においても、生徒の生活面の環境を整えておくことが必要であるとされている。提言を受け、現在、県教委では今後の対応を検討しているところである。
- ・ 教職員配置について管理職の異動が頻繁すぎるとの意見をいただいたが、教職員配置を所管する部署に情報提供していきたい。
- ・ 高校教員の配置については、高校標準法をもとに配置されるが、この法律は1学級定員を40人を規準として、国からの助成があるところ。現在は、復興加配もあり、軽重を付け各校に配置しているが、県全体でのバランスをみながら配置を考えていく必要があると考えている。
- ・ 現在7校の1学級校には、単純に学級規模のみで教員配置数を決定しているのではなく、加配等の配慮を行っているところ。
- ・ 魅力ある学校づくりについては、高校を選択する中学生にとっての魅力という視点から新たな取組を進めていくということだけではなく、現在の各高校の取組についてこれまで以上に情報発信していく必要があると考えている。
- ・ 入学した高校生にとっての魅力としては、就職や進学という進路実現ができる取組が必要である。地域にとっての高校の魅力としては、地域人材の確保という要望も強いため、県内就職率の向上を目指した取組の推進に力を入れていきたい。キャリア教育として地域企業や関係団体から協力いただきながら様々な取組を行っている高校もあり、そのような取組を通じて地域理解にも努めていきたい。
- ・ 工業人材の育成についての意見もいただいたが、再編計画の推進においては、実際の学級数調整については、産業振興の方向性や産業界のニーズを踏まえ適切に判断していきたいと考えており、平成31年度に学科改編を予定していた水沢工業高校については社会情勢等の変化を踏まえ学科改編を延期したところ。盛岡工業高校については、生徒が盛岡一極集中している状況や工業人材のニーズの高まり等も踏まえながら、適切に判断していく必要があると考えている。

【田村 八幡平市長】

- ・ 次回の地域検討会議では私立高校の入学者数や在籍者数に関する情報もいただきたい。
- ・ IT関連について学ばせ、第一次産業を盛り立てるような農業高校の経営をしたいという企業もある。高校の経営となると難しい面があると思うが、地元企業と連携しながら農業高校において最先端の授業を行っていくことも考えられる。

【県教委】

- ・ 再編計画の策定においては、教育の機会の保障と教育の質の保証を大きな柱としているが、この二つを両立させることは非常に難しいことであると考えている。
- ・ 今回いただいた意見の中にも、学科のあり方や魅力ある学校づくり、県外からの生徒の受入れ、家庭負担の軽減を考えた高校の配置等様々な御意見があった。再編計画においては、これ

らを両立させていかなければならず、これを両立させていくためには、更なる皆様の多様な意見が必要である。

- ・ 以前と比べ、現在の高校では地域との連携に取り組み、地域の教育資源を活用しながら学んでいる。地域課題を教材にしながら探求する力を身につけていくということは、地域の協力がなければ実現できないことである。
- ・ 県外からの生徒の受入れについては今後取り組んでいく予定であるが、具体化していく中では、後期計画にも取り込んでいく必要があると考えている。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第1回 盛岡ブロック①)

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	八幡平市	田村正彦	八幡平市長	
2		遠藤収一	八幡平市商工会 事務局長	
3		小澤和弘	新岩手農業協同組合 常務理事	
4		齊藤正樹	八幡平市PTA連絡協議会 (八幡平市立安代中学校PTA会長)	
5		星俊也	八幡平市教育委員会 教育長	
6	岩手町	佐々木光司	岩手町長	
7		八戸保彦	岩手町商工会 会長	
8		福土好子	岩手町農業委員会	
9		松浦智也	岩手町PTA連合会 (岩手町立一方井中学校PTA会長)	
10		平澤勝郎	岩手町教育委員会 教育長	
11	滝沢市	阿部正喜	滝沢市商工会 会長	
12		田沼伸也	新岩手農業協同組合滝沢支所 支所長	
13		山口恒司	滝沢市PTA連絡協議会 (滝沢市立滝沢第二中学校PTA会長)	
14		熊谷雅英	滝沢市教育委員会 教育長	
15	紫波町	熊谷泉	紫波町長	
16		細川勝浩	岩手県農業農村指導士	
17		富岡靖博	㈱富岡鉄工所 代表取締役	
18		森川高博	紫波町PTA連合会 会長 (紫波町立紫波第一中学校PTA会長)	
19		侘美淳	紫波町教育委員会 教育長	
20	地区中学校長代表	小山孝治	岩手地区中学校長会 (滝沢市立滝沢南中学校長)	
21		内田興子	紫波郡中学校長会 (紫波町立紫波第二中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
22	県議会議員	千葉伝	岩手県議会議員	
23		工藤勝博	岩手県議会議員	
24		ハクセル美穂子	岩手県議会議員	
25		柳村岩見	岩手県議会議員	
26		田村勝則	岩手県議会議員	
27	県立高等学校	菅原尚志	盛岡第二高等学校長	
28		佐藤一義	盛岡北高等学校長	
29		岩渕健一	盛岡農業高等学校長	
30		長谷川昌生	沼宮内高等学校長	
31		太田優子	平舘高等学校長	
32		馬場香樹	紫波総合高等学校長	
33		西崇	盛岡工業高等学校 副校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
34	県教育委員会事務局等	小林満	盛岡教育事務所主任指導主事	
35		村松雅彦	盛岡教育事務所指導主事	
36		岩井昭	教育次長	
37		佐藤有	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
38		小久保智史	学校教育課総括課長	
39		森田竜平	学校調整課学校調整担当課長	
40		藤澤良志	学校調整課高校改革課長	
41		宇夫方聰	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
42		梅澤貴次	学校調整課高校改革担当主査	
43		市丸成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
44		谷地信治	学校調整課高校改革担当指導主事	

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第1回盛岡ブロック②）会議録 【盛岡ブロック②：盛岡市、雫石町、葛巻町、矢巾町】

○ 日 時：平成31年1月28日（月）10時00分～12時00分

○ 場 所：岩手県公会堂 2階21号室

○ 出席者

① 会議構成員

盛岡市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

雫石町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

葛巻市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

矢巾町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

盛岡教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

○ 傍聴者：一般4人、報道3人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

(1) 本県の高等学校教育の現状について

【県教委】

- ・ 本県の高等学校教育の現状について、事務局から説明をお願いする。

【県教委】

- ・ 資料No. 1「岩手県における中学校卒業生数及び高校入学者数の推移」、資料No. 2「再編計画策定に係る取組及び「後期計画」検討スケジュール」、資料No. 3-1「新たな県立高等学校再編計画の概要」、資料No. 3-2「新たな県立高等学校再編計画（前期計画）の推進状況」、資料No. 3-3「高校教育を巡る最近の動き」、資料No. 4「県立高等学校の入試状況の推移（全日制）」、資料No. 5「中学生の進路希望等に関するアンケート結果」に基づき説明。

(2) 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

都市部、中山間地・沿岸部における今後の高校のあり方について

【県教委】

- ・ 本県の高等学校教育の現状と課題を踏まえ、意見交換テーマに基づいた御意見をいただきたい。

【猿子 雫石町長】

- ・ 雫石高校については少子化の影響で定員割れが続いている。
- ・ 雫石町は交通の便を考えると都市部に分類されるかもしれないが、町の面積が約609km²と広く、雫石高校が無くなると高校への通学が困難になる地域もある。
- ・ 平成29年度に雫石高校将来ビジョン策定委員会を開催し、雫石高校の様々な支援について

検討を重ねてきた。町として雫石高校の生徒確保に向けた取組を推進していく予定であり、雫石高校の魅力をも町民に情報発信していきたい。

- ・ 雫石高校には、これまで秋田県仙北市から入学する生徒がいたが、秋田県では、少子化対策として秋田県内の高校への通学を促す取組を推進していると聞いている。

【觸澤 葛巻町副町長】

- ・ 中学校卒業予定者数が、再編計画を策定した時から後期計画終了時まで約20%減少すると見込まれているが、再編計画では、この中学校卒業予定者数に学級数を合わせることを重視しているように感じる。この考え方を推し進めると、中学校卒業予定者数が減少していく地域からは高校がなくなってしまうことになる。
- ・ 中山間地には経済的に厳しい家庭もあり、地元の高校が無くなると教育の機会を失う生徒が生じてしまう懸念がある。
- ・ 地元の高校の存続のため、現在のままでは近隣の市町村で生徒の奪い合いになるので、後期計画では県外からの生徒の受入れ制度について強く打ち出し、発展的な再編計画としてほしい。
- ・ 葛巻町では平成27年度から県外から生徒を受入れる山村留学に取り組んでいるが、このような市町村の高校の存続に向けた取組を後押しする仕組みづくりを進めてほしい。
- ・ 高校教育では大学進学だけを目指すのではなく、高校の実践的な学びを通じ、地域課題に取り組む等の、地元企業や自治体と協働した将来の地域を担う人材育成に取り組むことが重要であり、そのために地域の高校の存続を望んでいる。
- ・ 葛巻高校は平成30年度に1学級減の計画であったが、入学生数の増加等から学級減を延期していただいている。また、特例校に指定され、1学級校になっても存続するとされているが、生徒のニーズに応え、きめ細やかな指導をしていくためには2学級規模は必要である。
- ・ 生徒減少に学級減で対応するのではなく、30人学級の導入を検討してほしい。
- ・ 葛巻町では、公営塾や県外からの生徒受入れ可能な30人規模の寮を6月からの設置等、葛巻高校の支援に取り組んでいる。
- ・ 平成31年度入試に向け、全国から22組の家族が山村留学に興味を持ち見学にきた。実際に山村留学制度に応募した生徒は10人であり、その10人が山村留学候補生となっている。
- ・ 更なる県外生徒の受入れ人数の増加に備え、町内の旅館等での受入れ体制の準備も始めている。
- ・ 今後、山村留学に向けた取組を円滑に進めていくため、学級減の延期を単年度で判断するのではなく、当面、葛巻高校は2学級を維持していくという方針を示してほしい。

【高橋 矢巾町長】

- ・ 資料 No. 3-3 「高校教育を巡る最近の動き」に、学校運営協議会の設置を努力義務化するとあるが、本県の県立高校での設置状況について教えてほしい。
- ・ 3Kといわれる建設・土木関係、介護関係の職場では人手不足が課題となっている。また、ILCの誘致やAI、ICT技術の発展に対応していく必要もあるが、県教委では、どのような考えで学科を設置しているのか伺いたい。
- ・ 県内には併設型、連携型の中高一貫教育校があるが、今後は学級減により生じた空き教室を利用した中高連携も考えられるのではないかと。
- ・ 併設型の中高一貫教育校である一関第一高校附属中学校へは遠方から入学する生徒もいるため、後期計画では盛岡地域での中高一貫教育校の設置も検討すべきではないかと。

【菊池 (株)兼平製麺所取締役総務部長】

- ・ 当社ではミャンマーから3年間の技能実習生を約30人受け入れている。震災前は10人の県内求人を出せば10人採用できる状況であったが、震災後は求人倍率が1.5倍になり、県内から採用するのが難しい状況に変わった。そのため、現在は外国からの技能実習生の受け入れを行っている。
- ・ 製麺所は土日や年末年始が休日ではないことで敬遠され、高卒人材の確保が難しい。
- ・ 商業高校や工業高校では大学等への進学率が上がってきていると聞いている。首都圏に進学した生徒は、県内に働きたい企業がないからという理由で地元に戻ってこない傾向があるため、若者にとって魅力ある自治体や企業づくりに取り組んでいく必要があると考えている。
- ・ 学校と地域の連携を深め、学力重視だけではなく、地域人材育成に向けた取り組みを進め、若者が地元に残る活動を推進してほしい。そのために民間企業も協力していきたいと考えている。

【嵯峨 盛岡市農業委員会会長職務代理者】

- ・ 地域連携は学校教育にとって大切であると考えている。それぞれの地域には様々な産業があり、企業等での体験学習や地域人材による講話等、地域との交流は学校の魅力づくりにつながると思う。
- ・ 生徒の学習意欲の向上に向け、地域人材を活用した取組等を高校のカリキュラムに取り入れていく必要があると思う。

【久保 葛巻町産業関係者代表】

- ・ 葛巻町の基幹産業は酪農であるが、葛巻町には酪農に携わる若者もいて、更に、その若者が経営する農場で研修する高校生も大勢いるため、魅力ある町であると感じている。
- ・ 葛巻高校には町の支援で公営塾が設置されており、地元に住んでいても大学進学を目指せる環境がある。
- ・ 山村留学にも積極的に取り組んでおり、地元の高校に通いながら県外出身の生徒との交流ができる良い環境があると思っている。
- ・ そのような環境を維持していくためにも、葛巻高校の2学級維持を強く望んでいる。

【水本 矢巾町商工会会長】

- ・ 高校再編の前提となっている少子化をいかに防止していくかを考えていく必要がある。
- ・ 学校の進路指導においては、進学率の向上、一流大学への進学者数、大企業への就職者数を教育の成果と捉える傾向があるのではないかと。
- ・ 企業合同就職説明会で進路指導を担当する先生方には、地元定着の必要性について説明し理解していただいているが、その他の先生方や保護者の方々にも理解していただく必要があると思っている。
- ・ 卒業3年後の離職率が大学卒では3割、高校卒では4割といわれるが、第2新卒者（卒業後短期間で転職を目指す者）をいかに地元呼び戻すことができるかが課題になっている。
- ・ 一度は都会に出てみたいという好奇心を止めることはできないが、Uターンを促進するためには、県外の企業を離職した卒業生の転職相談に高校が対応できる体制の確立が必要ではないかと。
- ・ 産業界としては若者から支持される魅力的な就業環境の提供を目指していきたい。

【佐々木 矢巾町建設業協議会会長】

- ・ 建設業や製造業では求人を出しても応募者が少ない状況である。新卒者が入社してこない状

況があり、熟練技術者からの技術の継承が課題になってきている。

- ・ 県では次期総合計画の策定に取り組んでいるが、第1期アクションプラン（中間案）県央広域振興圏では「産学官金連携によるIT産業の育成やものづくり産業の振興に取り組みます」「地域産業の特性に応じた産業人材の確保・育成とやりがいを持って働くことができる労働環境の整備を進めます」とある。高校再編計画では職業に関する専門学科が15～17学科減（平成30年度から平成37年度）と見込んでいるが、次期総合計画の目標を達成できるよう専門学科を減らさないように再編計画を再考してほしい。
- ・ 専門学科で3年間学んできた生徒は基本的な専門知識を身につけており、技術の継承には欠かせない人材であるため専門学科を減らさないようにしてほしい。

【佐藤 盛岡市PTA連合会会長】

- ・ 盛岡近郊には高校が多く設置されているが、保護者や中学生は学力中心で進路を決める傾向が強いと思う。
- ・ 工業、農業、商業高校などの専門学科では専門知識をしっかり身につけ、その後の進路につなげていく学校であるため、学力だけで判断し進路決定してほしくない。そのためには中学生までに進路の意識付けをしっかりと行い、専門高校での学習内容をしっかり理解して入学することが大切であると思う。
- ・ 保護者はできるだけ近い高校へ入学させたいという想いがあると思うが、寮等の生活環境を整えた専門高校を設置すれば、中山間地等の生徒の高校の選択肢を増やすことができるのではないか。

【藤原 雫石町立雫石中学校PTA会長】

- ・ 資料No.5「中学生の進路希望等に関するアンケート結果」の高校での勉強や部活動をする上で4学級以上が良いと回答した割合が大幅に増加している理由について教えてほしい。
- ・ 4～6学級規模を確保したい理由として高校で社会性を身につけさせたいとの説明があったが、大きな規模の高校に入学したとしても実際の生徒間の交流は少人数である場合が多く、また、将来大企業への就職等を目指すのではなく、地元企業で働いていくことを考えると小規模校でも、ある程度の社会性を身につけることは可能であると思う。そのため、中山間地等では小規模校も、維持していくような学校づくりが必要であると思う。
- ・ 雫石高校の取組については理解しているが、他の地域と学校が連携した具体的な取り組みがあれば紹介してほしい。
- ・ 雫石町の生徒の多くは盛岡市内の高校へ入学する場合が多く、盛岡市から雫石高校へ入学する生徒は少ない。地域の人材育成を考えると、町内から盛岡市内の高校に入学した生徒に対しても地域の活動に参加できる体制を整えていく必要があるのではないか。
- ・ 地元で学び、地域の人材を育成していくために、地元企業や自治体と連携しながら教育環境を整えていく必要があると思う。
- ・ 高校再編においては、私立高校との協議の場や協力体制の確立も必要ではないか。

【上野 葛巻町立葛巻中学校PTA副会長】

- ・ 葛巻町の生徒が葛巻高校以外に通学するためには、公共交通機関の便が悪いため不便である。
- ・ 葛巻町では葛巻高校は高校の魅力づくりに力を入れ、町は公営塾や山村留学の寮の設置等の支援をしており、保護者としてはとてもありがたい。
- ・ 地元の中学校卒業生数は減少しているが、県外等からスノーワンダーランド（小中学生対象とした葛巻牧場での体験学習）に参加し、その縁で山村留学として葛巻高校へ入学している生

徒もいる。

- ・ スノーワンダーランドでは2日間の酪農家へのホームステイがあるが、そこでは参加している子供たちと、受け入れた酪農家の子供たちの交流もあり、豊かな心の育成にもつながっていると感じている。
- ・ 中山間地では生徒減少により学びを縮小していくのではなく、教育環境確保のために2学級を維持し、都市部と同様の学ぶ環境整備に努めてほしい。

【鑑 矢巾町立矢巾北中学校PTA会長】

- ・ 資料3-2「新たな県立高等学校再編計画（前期計画）の推進状況」では学級減等を延期した高校が示されているが、学級減等を延期した理由について伺いたい。また、今後の学級減等も示されているが、この学級減等については決定したものなのか、延期もあり得るのか教えてほしい。
- ・ 矢巾町近郊の高校では盛岡第四高校が平成31年度に学級減となるため、志願をあきらめる生徒もいると聞いている。1校の学級減でも影響が大きいと感じているが、平成32年度には矢巾町近郊の多数の高校の学級減が計画されており、不安を感じている保護者や生徒がいると思う。
- ・ 中学校卒業予定者が今後減っていく状況を踏まえると、学級減をしていくこともやむを得ないと思うが、不来方高校は特色ある学系を持つ高校であり、中学生の進路希望を踏まえると特色ある学系については存続してほしい。
- ・ 例えば芸術学系等を小学校から目指して努力している子供もいると思うので、突然選択肢がなくなることがないように、余裕を持った改編等を行ってほしい。

【小山田 盛岡市教育委員会参事兼学校教育課長】

- ・ 高校再編については子供たちの進路希望に沿った形で進めていく必要がある。
- ・ 中学生のアンケート結果では4～6学級規模の高校を希望する生徒が増加しているが、一方で小規模校を望む生徒もおり、そのような生徒の希望も踏まえて考えていく必要がある。
- ・ 都市部、沿岸部、中山間地それぞれでの高校の役割があり、多様な生徒への対応や地域産業の担い手育成という視点も高校再編においては大切である。
- ・ 本県の高校教育の目的として自立した社会人の育成を掲げているが、専門人材の育成を考えると各専門学科の募集定員を同一にする必要があるのかも含めながら、1学級の定員について検討していく必要があると思う。

【若林 雫石町教育委員会教育次長兼学校教育課長】

- ・ 後期計画を策定していく上では、昭和23年の高等学校設置基準公布に伴い設置された高校と、中学校卒業生数の増加への対応で新設された高校について、整理して考えていく必要があるのではないか。
- ・ 雫石高校は公共交通の便が良い地域と悪い地域があり、都市部の高校、中山間地の高校の両方の捉え方があると思うが、雫石高校が無くなると高校へ通学が困難となる地域もあることから、高校再編と考えていく場合には、中山間地の高校として検討してほしい。
- ・ 資料No.3-1「新たな県立高等学校再編計画の概要」の高校教育の現状と課題に「特別な支援を必要としている生徒の増加」が挙げられているが、雫石高校には、そのような生徒も入学していることから、特別な支援を必要とする生徒への対応を担う高校として存続させていくことも考えられる。

【吉田 葛巻町教育委員会教育長】

- ・ 高校再編においては、小規模校だから無くしてよいということではないと思う。
- ・ 葛巻町から盛岡市内の進学校へ入学する生徒もいるが、生徒それぞれの夢を叶えるため葛巻高校に入学しており、進学や就職等様々な進路希望に対応していくためには2学級を維持していく必要がある。
- ・ 葛巻町では地方創生に取り組んでいるが、地元から若者が流出していくという流れを変えていく必要がある。
- ・ 島根県では、しまね留学等の取組を行い、年間150人以上の生徒が県外から入学している。
- ・ 全国的には、「地域みらい留学推進協議会」として、地方に若者を集めようとする高校、県教委、自治体等の新しい仕組みを考える動きがある。葛巻町としても、この協議会に加盟しながら葛巻町の魅力を県外にPRしていきたいと考えている。（「地域みらい留学推進協議会」は県外留学進路説明会の企画・運営等を行う「地域みらい留学事業」（2019年2月1日施行）に契約した学校及び自治体における協議の名称）
- ・ 県としても各市町村と協力しながら県外生徒の受入れ制度をつくり、地域の高校の存続について考えてほしい。

【和田 矢巾町教育委員会教育長】

- ・ 現在、学校現場では中途退学者、中学校での不登校経験者、発達障害等多様な生徒への対応に追われている。
- ・ そのような生徒にとっては、これまでの状況をよく知る地元の高校が安心して学べる高校であると思うので、小規模であっても地元の高校は大切であると思う。
- ・ 多様な生徒へ対応できる高校が必要であり、そのためには各地域に特色をもった高校を作っていく必要がある。
- ・ 県内の中学校卒業生数が減っていく中、矢巾町の生徒数は10年後も殆ど変わらない状況が続くため、特色ある学系が設置されている地元の不来方高校については、存続に向けた御配慮をお願いしたい。

【田山 盛岡市中学校長会会長】

- ・ 中学校の進路指導では、将来どのように生きていくかというキャリア教育に力を入れている。生涯にわたっての生き方について考えさせ、その上で高校を選択させる指導を行っている。
- ・ 各高校の特色、学習内容等の情報を伝えていくことが重要であり、どの高校でも体験入学を実施している。中学生によっては、4～5校の体験入学に参加し、実際に自分の目で確かめた上で進路を決定している。
- ・ 今回、産業界や地域の方々の意見を伺い、今後中学校でも産業界や地域の方々の想いを生徒にもっと伝えていく必要があると感じた。
- ・ 高校再編においては生徒減少に伴い、学級減をしていかなければならない状況ではあるが、学級減になったとしても、きめ細かな教育活動の継続等、教育の質を落とさないような教員配等サポート体制をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 高校における学校運営協議会の設置状況についてであるが、高校での設置についてはこれから取り組んでいくものであるため、現在はまだ設置されていない。現在、各高校には地域の意見を伺う場として、学校評議委員会制度があるため、その制度も生かしながら対応していくことになると考えている。

- ・ 設置学科の考え方についてであるが、学科設置に関しては中学生の希望の他、地域の産業等も考慮し決定している。参考資料No.5「中学生の進路希望等に関するアンケート」に示している通り、現在の設置学科割合については、中学生の希望にほぼ近い状況である。
- ・ 中高一貫教育校の設置についての要望があったが、平成 21 年度に設置した一関第一高校附属中学校は県内のリーダー育成等を目的としたものであり、平成 31 年 3 月に一期生が四年制大学を卒業するため、その進路状況等も検証しながら検討していきたい。
- ・ 連携校としては葛巻高校、軽米高校があるが、連携校の設置については地元中学校卒業者の入学割合がある程度高いこと等が必要であると考えている。
- ・ 中学校アンケート結果において 4～6 学級の希望が増えた理由であるが、詳細理由については回答を求めているのでわからないが、平成 27 年度のアンケートでは中学校 3 年生の 1 学級を抽出して実施していたのに対し、今回のアンケートでは中学生 3 年生の全数を調査対象としたため、前回よりも学級数が多い都市部での中学生の回答が色濃く出たのではないかと推測している。また、現在の各学校の状況が良く分かるよう、学級数を明示した資料を添付した。
- ・ 少人数学級の導入に関する意見が出されたが、現在は 1 学級定員を 40 人として教員配置されているため、国に対して教員定数の改善について要望しているところ。現状のまま少人数学級を導入した場合、教員定数が減るため、県全体の教員配置数を減らさなければならない状況である。
- ・ 再編計画で示していた学科改編等の延期理由については、再編計画においてブロック内の中学校卒業予定者数や定員充足状況等に変化があった場合には、学科改編等の実施時期等の変更も検討することとしており、今年度延期した高校については定員充足状況等に変化があったと判断したものである。例えば水沢工業高校については、これまで定員割れが続いていたが、ほぼ定員を満了した状況になった。これは県南地域に企業進出等の影響もあると考えられることから、もう少し状況を見極めるため延期したものである。
- ・ 県外生徒の受け入れについては、昨年度から外部有識者による県外からの生徒の受け入れについて検討を重ねており、本年度 8 月に提言を頂いている。提言では、県内生徒の学ぶ環境を確保した上で、県外受け入れを認めるという方向性が示されており、現在制度設計に向け検討している。

【県教委】

- ・ 人材育成に関する意見として、高卒求人を出しても人材確保が難しく技術の継承に課題があるとの御意見を頂いた。地域人材育成については、高校再編のみならず、教育活動全体で取り組んでいかなければならない課題であると捉えている。
- ・ 県教委としては各高校に対して地元定着の推進について通知する等、県内就職率の向上に取り組んでいる。
- ・ 県でも「岩手で働こう推進協議会」を発足させ、官民一体となって取り組んでいる。SNS を活用し、岩手を離れても岩手とのつながりを持ち続けることができるような取組も実施し、若者が岩手に誇りと愛着を持つよう努力している。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第1回 盛岡ブロック②)

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	盛岡市	菊池 龍司	株式会社兼平製麺所 取締役総務部長	代理
2		嵯峨 忠志	盛岡市農業委員会 会長職務代理者	
3		佐藤 康之	盛岡市PTA連合会 会長	
4		小山田 秀次	盛岡市教育委員会 参事兼学校教育課長	代理
5	雫石町	猿子 恵久	雫石町長	
6		藤原 瑞枝	雫石町立雫石中学校PTA 会長	
7		若林 武文	雫石町教育委員会 教育次長兼学校教育課長	代理
8	葛巻町	觸澤 義美	葛巻町 副町長	代理
9		久保 淳	葛巻町産業関係者代表(酪農)	
10		上野 勝俊	葛巻町立葛巻中学校PTA 副会長	
11		吉田 信一	葛巻町教育委員会 教育長	
12	矢巾町	高橋 昌造	矢巾町長	
13		水本 孝	矢巾町商工会 会長	
14		佐々木 和久	矢巾町建設業協議会 会長	
15		鎗 洋高	矢巾町立矢巾北中学校PTA 会長	
16		和田 修	矢巾町教育委員会 教育長	
17	地区中学校長代表	田山 英治	盛岡市中学校長会 会長(盛岡市立米内中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
18	県議会議員	小西 和子	岩手県議会議員	
19		斉藤 信	岩手県議会議員	
20		阿部 盛重	岩手県議会議員	
21		工藤 勝博	岩手県議会議員	
22		ハクセル美穂子	岩手県議会議員	
23		臼澤 勉	岩手県議会議員	
24	県立高等学校	川上 圭一	盛岡第一高等学校長	
25		菅原 尚志	盛岡第二高等学校長	
26		中島 新	盛岡第三高等学校長	
27		小田島 正明	盛岡第四高等学校長	
28		佐藤 一義	盛岡北高等学校長	
29		松尾 和彦	盛岡南高等学校長	
30		佐々木 和哉	不来方高等学校長	
31		小笠原 健一郎	杜陵高等学校長	
32		阿部 徹	盛岡工業高等学校長	
33		猿川 泰司	盛岡商業高等学校長	
34		上柿 剛	葛巻高等学校長	
35		小原 由紀	雫石高等学校長	
36		馬場 香樹	紫波総合高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
37	県教育委員会 事務局等	田村 忠	盛岡教育事務所長	
38		小林 満	盛岡教育事務所主任指導主事	
39		村松 雅彦	盛岡教育事務所指導主事	
40		岩井 昭	教育次長	
41		佐藤 有	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
42		里舘 文彦	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
43		森田 竜平	学校調整課学校調整担当課長	
44		藤澤 良志	学校調整課高校改革課長	
45		宇夫方 聰	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
46		梅澤 貴次	学校調整課高校改革担当主査	
47		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当指導主事	
48		谷地 信治	学校調整課高校改革担当指導主事	